

幼児の体力、運動・生活習慣とGRITおよび社会情動的スキルとの関係

○中野貴博 (中京大学) : nka@sass.chukyo-u.ac.jp

1. 研究の背景と目的

社会の変化に伴い子どもの運動のあり方や価値の議論が活発になっている。近年では、運動＝体力向上といった一辺倒の価値だけでは、思うように子どもの運動促進は進んでおらず、以前のような水準での運動実施を求めることは容易ではなくなっている。そのため運動の効果として、体力のみならず教育的効果や生活習慣の獲得を同時に示していく必要がある。例えば、保育所保育指針に示されている非認知能力（社会情動的スキル）などは運動による教育的効果の代表であろう。また、幼少期における生活習慣獲得の重要性は言うまでもない。

本研究では、**幼児の体力、運動・生活習慣と教育効果としてのGRITおよび社会情動的スキル（SES）との関係性を検討することを目的とした**。我々は、これまでに児童を対象として類似の関係性を示してきたが、**幼児段階でも同じような関係性は見られるのか、なども含めて考察を行う。**

▶ 体力への価値の変化 } **運動＝体力だけでは不十分、実施率は上がらない？**
 ▶ 運動への価値の変化 } **では、運動は子どもの何に貢献できるか？**

教育効果の検証 → **本質的な運動をする子**
運動嗜好の高い家庭 の増加を目指して

3. 方法（対象者、調査・測定項目、分析手続き）

【調査対象者】

A県S市の公立保育園5園に通う年中長児の保護者222名（有効回答194名）に質問紙調査を実施した。

学年	男児	女児	未回答	合計
年長	47	43	2	92
年中	56	45	1	103
全体	103	88	3	194

【調査方法・分析対象項目】

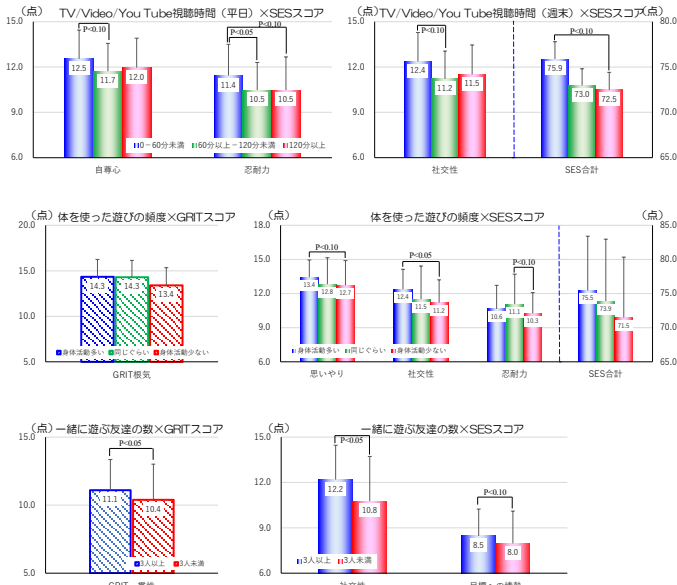
質問紙調査は、A4用紙4ページで構成し、子どもの生活習慣、運動習慣、GRIT、SES、保護者の運動習慣に関する大問5問、計56問で構成した。紙媒体の調査用紙を封筒に入れた状態で各園経由で配布し、回収時は封をした状態で同じく各園経由で回収した。回答には4または5件法のリッカートスケールを用い、必要に応じて園や日常の様子を子どもに確認しながら、保護者に回答を記入していただいた。この内、以下に示す項目を本研究の分析項目とした。また、体力測定に関しては、同年の2月～3月にかけて実施した（前学年時）結果を用いた。体力測定項目は、握力、長座体前屈、25m走、ソフトボール投げ、体支持持続時間、立ち幅跳び、反復横跳びの7項目を用いた。

分析変数：

体力テスト ⇒ 50m走、立ち幅跳び、反復横跳び、握力、長座体前屈、ソフトボール投げ、体支持持続時間
 生活習慣 ⇒ 朝食摂取、Game実施、TV/Video等の時間
 運動習慣 ⇒ 運動時間、体を動かす遊びの程度、一緒に遊ぶ友達の数
 教育効果 ⇒ GRIT（8項目）（やり抜く力：西川ら、2015）
 社会情動的スキル（21項目）の（SES：山田ら、2023）

4. 結果

結果I 運動・生活習慣によるGRITとSESスコアの違い



生活習慣では、TV/Video/YouTube視聴時間（平日）において自尊心および忍耐力、TV/Video/YouTube視聴時間（週末）において社交性およびSES合計スコアに有意な違いが見られた。
 運動習慣では、体を動かす遊びの頻度においてGRIT根気および、思いやり、社交性、忍耐力、SES合計スコアに有意な違いが見られた。また、一緒に遊ぶ友達の数においては、GRIT－貫性、社交性、目標への情熱スコアに有意な違いが見られた。

2. 結果のまとめ

GRIT（－貫性）

- ▶ 一緒に遊ぶ友達の数
- ▶ 25m走

GRIT（根気）

- ▶ 体を動かす遊びの程度（有意傾向）

SES（自尊心）

- ▶ 体支持持続時間

SES（思いやり）

- ▶ 体を動かす遊びの程度（有意傾向）
- ▶ 立ち幅跳び

SES（社交性）

- ▶ TV/Video等の時間
- ▶ 体を動かす遊びの程度
- ▶ 一緒に遊ぶ友達の数

SES（敬意）

- ▶ 体支持持続時間（有意傾向）

SES（忍耐力）

- ▶ 一緒に遊ぶ友達の数（有意傾向）
- ▶ 25m走（有意傾向）

SES（目標への情熱）

- ▶ TV/Video等の時間
- ▶ 体を動かす遊びの程度（有意傾向）

I. 運動・生活習慣とGRITとSES

生活習慣に関しては、TV/Video/YouTubeの視聴時間が短い方が「自尊心」「忍耐力」「社交性」の得点が高い傾向にあったが、全体的な傾向は弱かった。運動習慣では、「体を動かす遊びの頻度」とGRIT根気、「一緒に遊ぶ友達の数」とGRIT－貫性で関係が見られた。また、「一緒に遊ぶ友達の数」が多い方がSES合計点と「社交性」「目標への情熱（有意傾向）」が高い傾向にあった。

II. 体力・運動能力とGRITとSES

体力・運動能力に関しては、体力合計とGRITでは、根気と合計でわずかに差は見られるが、有意差はなかった。項目別でも、GRIT合計と25m走と思いやりと立ち幅跳びぐらいであった。体力・運動能力とGRITには関係はありそうだが、**幼児期では、まだ関係性があまり強く出現していないことが示唆された。**

【分析手続き】

分析1：各評価指標の算出

Step1：体力・運動能力テスト ⇒ 性・学年別の偏差値（t-score）
 Step2：GRITスコア ⇒ 西川ら（2015）に依り、GRIT合計（40点満点）、GRIT－貫性（20点満点）、GRIT根気（20点満点）の構成項目の評価値の単純和を算出。
 SESスコア ⇒ 山田ら（2023）に依り、SES合計（105点満点）、自尊心、思いやり、社交性、敬意、自己制御、目標への情熱、忍耐力（各15点満点）の構成項目の評価値の単純和を算出。

分析2：運動・生活習慣、体力テストの結果と教育効果としてのGRITおよび社会情動的スキル（SES）との関係性の検討

Step1：朝食摂取、Game実施、TV/Video等の時間 × GRITとSES
 Step2：運動時間、体を動かす遊びの程度、一緒に遊ぶ友達の数 × GRITとSES
 ⇒ 対応のないt検定 or 一元配置分散分析
 Step3：体力テスト（偏差値45未満、45～55未満、55以上の3群） × GRITとSES
 ⇒ 一元配置分散分析

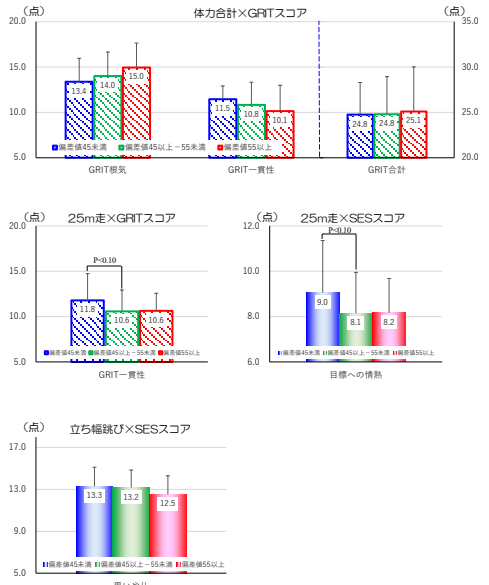
※. 事後検定はいずれもBonferroni法

▶ 運動・生活習慣
 ▶ 体力テストの記録
 × 違い
 関係性

教育効果

- ▶ GRIT（GRIT根気、GRIT－貫性）
- ▶ 社会情動的スキル（Social and Emotional Skills）（自尊心、思いやり、社交性、敬意、自己制御、目標への情熱、忍耐力）

結果II 体力・運動能力によるGRITとSESスコアの違い



体力・運動能力では、GRITと体力全体の間には有意な関係性は確認されなかった。一方、各項目での検討では、25m走において、GRIT－貫性および目標への情熱のスコアに有意な違いが確認された。また、立ち幅跳びでは、思いやりのスコアに有意な違いが確認されたが、全体としては、**幼児期においては、体力・運動能力によりGRITやSESのスコアに目立った違いは確認されなかった。**